うずまのほたる

平成26年11月1日 ほたる飛び交う中地区をめざす運動の会会 長森田 広報班長神山 芳典

中小学校卒業生の力

ほたる飛び交う中地区を目指す運動の会 会長 森田 弘

平成14年6月、中小学校にほたるがあわい光を放ち飛び始めました。それから毎年「中地区ほたるを観る会」を多くの皆様の協力を得て盛大に開催してきました。今年で13回目を迎えることができました。中小学校の児童は、ほたるの生態を調べ、観察し、飼育をしてきました。その結果を「中地区ほたるを観る会」や渡良瀬遊水地学習研究発表会などに発表し活動してきました。

今回の「中地区ほたるを観る会」では、ほたるの活動をしてきた中小学校の卒業生(小林享嗣 H16年卒、須賀佑花里・白石崇斗・森田康介以上 H17年卒、須賀裕紀絵 H18年卒)が会場準備、イベントの手伝い、後片付けに参加してくれました。会場準備、後片付けは、若い力が加わったことでスムーズに終了しました。イベントでは、卒業生の教え方が上手で親しみやすかったのか児童が卒業生の回りに沢山集まりイベントの一つである『ほたるの折り紙コーナー』も例年より盛り上がりました。ありがとうございました。

これからも中小学校児童そして中地区の夢「巴波川にほたるを甦えらせる」ための活動を続けて行きますので、今後もほたるボランティアの皆様、自治会、学校、PTA、そして中小学校卒業生の参加協力をお願いします。



中小学校の子どもが描く未来の小山

中小学校長 谷田部 二三子

今年は市制60周年の年。小山市では、ふるさと小山の魅力を 再認識する機会にしたいと、小中学生から「私が想像する10年 後の未来の小山市」というテーマとした絵画と作文を募集しまし た

本校でも、全員に絵画を、3年生以上に作文を書かせました。「10年後」ということで、高いビルや道路、遊園地や商店など、便利で発展した小山市の絵を描く子が多いのではないかと思っていたのですが、多くの子ども達は、自然豊かな小山市、または、自然と都市文化が融合した小山市を描いていました。そして、その中にホタルを描く子の多かったこと。中小学校の子ども達の心の中に、ふるさと中地区の自然を大切にしようという気持ちがあること、そして、そのシンボルとして、「ホタル」という存在があることを強く感じました。

自然との共存、様々な人々との共存、それが、人間らしい生き 方につながることも、子ども達の絵を見ていてあらためて感じた ところです。中小学校の子どもって、すごい!







3年

4年

5年

ほたる観る会に参加して

中地区自治連会長 飯田 利美

今までホタルと言えば、人里離れた大自然の中で見るものと思っておりました。初めて参加して、ここにもう一つのほたるの世界を見つけたような気がしました。人と地域とホタルが一体となった活動です。暗がりの中でかわされる「今晩は」「久しぶりですね」「今年もきれいですね」どの顔も、とっても楽しそうで幸せそうでした。ビオトープの周りでは「あっ光った光った」の歓声、友との再会を懐かしむ声。一つ二つと数える母子等様々な人間模様の中で、中地区ほたるの会が取り持つ地域の絆をしっかりと感じる事ができました。私も縁あって、この活動に参加する機会を得て、本当に良かったと思います。地域の諸先輩、お年寄り、子どもたちとの触れ合い、懐かしい中小の思い出が甦ってきました。

地域の皆さん、是非、この会へ参加して、一緒に盛り上げて行きましょう。

ぼくたちのほたるが飛んだ!

~ミニビオトープで"中地区ほたるを観る会"前に~

6年生が去年の秋から育てた理科室のミニビオトープのほたるが6月13・14日の「中地区ほたるを観る会」前の5月14日に飛び交いました。苦労と工夫を重ねて育てた子どもたちは驚きと喜びに歓声を上げました。おうちの人と一緒に、一足早い「ほたるを観る会」を持ちました。

ミニビオトープでの学習

6年担任 余川美智雄

私が担任する6年生は、総合的な学習の一環として、昨年度からホタルについての学習をしています。昨年度の9月から今年度の5月までは、ミニビオトープ作りを行いました。体育館北の屋外に1つ、校内の理科準備室に2つ作りました。子どもたちは、先輩方から受け継いできたことを生かしつつ、自分たちなりの工夫を加えながら活動を進めていました。修学旅行の前の週に、理科準備室のミニビオトープでホタルが飛んだときには、みんなで喜びの声を上げました。試行錯誤を繰り返しながら、たくさんの苦労もありましたが、子どもたちにとって非常に良いものになったと感じています。

中地区のじまん"ほたるを観る会"

3年

私は、「中地区ほたるを観る会」で一番心に残ったことは、折り紙でほたるを作ったことです。中地区わがまちげんき発掘事業委員会地区たんけんたいとして、「そう合学習」で中地区のことを学習しているので、ほたるがとんでいるのを見ると、とてもうれしくなりました。私たちが住んでいる中地区の自慢です。これからも地域の人たちと協力して、ほたるを守っていきたいと思います。きょう

ミニビオトープ作り

6年

拓海さんと光琉さんと涼雅さんと稜真さんとぼくで、一緒にミニビオトープを作りました。一番大変だったのは、土や石を運ぶことです。とても重かったので、校庭と理科準備室を何度も往復することがつらかったです。水を流すトンネルなどを作り、工夫できたのでよかったです。



来年の"中地区ほたるを観る会"に向けて

5年生ホタルの幼虫見学

オトープは自分たちでつくるんだ!

机井さんが教えてくれました

ほたるの幼虫見学

五年担任

入江

6月13日の"中地区ほたるを観る会は盛会の内に終了しましたが、飼育班の方々はご自宅で、翌日から来年度の準備に取り掛か っています。雌雄のほたるを交配させ、孵化した幼虫を飼育しています。5年生は、新井幸夫さん宅に飼育の様子を見学に行きまし

た。

もに感謝の気持ちを伝えたいです。 きました。 支えられ 方に協力い ありがとうございます。 ていることに、 みなさんに、 ただいて、

子どもたちとと 気づくことが だきました。 ようでした。 どもたちは、 今回、 の世話をするのか、

ださり、 に思うことができました。 自分たちの今後の活動を楽し 質問もたくさんさせていた 新井さんが笑顔で答えてく

新井さんをはじめ、

自分たちの たくさんの地

活動

タル たるの幼虫を育てたいと意欲的です。 調べ学習をしてきました。 年生は、 年生と一 の幼虫を見せていただきに行きま 見学させていただくことで、 ほたるやその生育につ どんなことに気をつけて幼 具体的にわかった 自 分たちでほ

緒に、 新井さんのお宅に



わかったことは、

水の管理やカワニナの飼

分たちのビオトー

プ作りに役立てた

大切だということです。

これらのこと

いるホタルはゲンジボタルだそうです。

ル

0

幼虫がたくさんいました。

飼育

七日に新井さんの家に行きました。

ほたるの幼虫を見学して

五年

今年はいっぱいお米がとれました =167kg=

5月1日の田植えから始まり、9月9日の稲刈り、更に9月22日の脱穀などの活動を通して中小学校児童とボランティアの皆さ んとの田んぼの交流が重ねられ、今までの最高の167kgが収穫されました。田んぼの水の管理や稗(ひぇ)抜き、除草剤等の作 業を続けられた松本昭二さん、増田博利さんのお陰です。えのき祭では収穫のお米を炊いてごちそうされます。

いねかり

1年

いねがすごく大きくなって、うれしか ったです。最初は、いねをかるのがむず かしかったけど、6ねんせいにおしえて もたったから、がんばってできました。 なれてきたらかんたんになってきまし た。いっしょうけんめいできて、きもち よかったです。おにぎりをたべるのがた のしみです。



5月1日・田植え

力を合わせて

2年

いねかりをやりました。松本さんやま す田さん、ちいきのかたたちが、こまめ に田んぼのようすを見にきてくれたり、 草とりをしてくれたりしたおかげで、い ねはとても大きくなっていました。5年 生に教えてもらいながら、かまをつかっ ていねをかりました。みんなで力を合わ せてかつどうできて、たのしかったで



9月9日・稲刈り

地域の方のおかげ

4年

ぼくはいねかりをしました。4ヶ月でけ っこう大きくなっていて、びっくりしまし た。地いきの方々にもいねの世話をしても らい、お世話になりました。ありがとうご ざいます。大きくなったのも地いきの方々 のおかげです。これからもよろしくお願い します。えのき祭で食べるのが楽しみです。



9月22日·脱穀

-うずまのほたる- 広報班

神山 芳典・神山 宜久・田波耕太郎・荒井 淑恵・松沼 中見川洋子・立石麻紀子・稲津美津恵・上野 敏晴・島田 編集後記 =

今回も無事に「うずまのほたる」第24号を発行することが できました。これからもボランティアさんや児童たちの活動 を皆さんに知っていただく為に頑張っていきます。 よろしくお願いします。